

酒々井町 郷土研究会々報

第70号

平成5年10月1日発行
酒々井町郷土研究会
編集部

下岩橋の弁天様

高橋 健一

蛇を使いとする弁才天は、もととはインド古代の神話に登場するサラスバティという大河の女神。仏教とともに日本に渡

来しました。『金光明最勝王経』には、知恵・財福・名声・解脱を求めものに功徳があると説かれています。

弁才天の像容は二臂(二腕)か八臂の天女神で、蛇冠に鳥居を戴き、右手には宝剣、左手には宝珠を持っています。ところが日本の女神である市杵島姫命と習合したため、白肉色で宝冠を戴き琵琶を弾く女性の姿というのが一般的となりました。

また、民衆には技芸の神として信仰されることが多い弁才天は、妙音天・美音天・大弁才功徳天などとも称されますが、弁

才天・弁天と呼ばれる場合が最も多いようです。その一方で、鎌倉時代になると財の字をあてられて弁財天ともなり福の神に変化、そのため江戸時代には七福神の一神に数えられるようになりました。

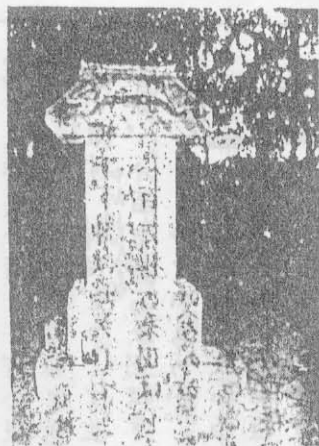
さて、土地では「ベンテンケマ」と呼ばれている下岩橋の弁才天、即ち弁天様は、弁天山と通称される小山の頂にまつられています。そして、その直下の水田は弁天下という小字地名となつています。

ここで近世史料をみると、寛永八年(一六三一)七月の「下総之国印旛之郡印東庄下岩橋村御縄打水帳(検地帳)」には「べんざいてんノ下」という地名が記載されています。弁天様はかなり古くからまつられていたようです。また、延享三年(一七四六)六月の「下総国印旛郡下岩橋村田畑諸役御差出帳(村明細帳)」にも、

一 高拾石 山林門前弁才天紫山等御朱印之内ニ御座候、ここに弁天様は大仏頂寺の寺領内、年貢が免除された御朱印地に存在したことが判明します。

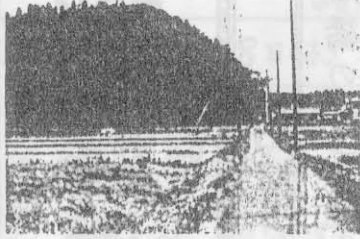
ところが、弁天様の石祠は、天保二年(一八三一)二月に彦右衛門(高橋氏)、喜右衛門(宮野氏)、三郎右衛門(相京氏)を世話人とする大仏頂寺(當時の住職は祐昭)の村檀家によつて造立されたものです。延享三年から数えても、そこには八十五年の時間差があります。しかし、この点については「遷宮」と刻まれた銘文が鍵となつていきます。即ち、弁天山には古い歴史をもつ弁天様の社殿がかつてはあり、それが何らかの理由で社殿から石祠へと変化していったことが推測されるのです。現在、建物のものでみられる礎石が十一個ほど地中に埋もれて残されていますが、これは社殿の礎石とみて間違いないでしょう。弁天様の御神体は大仏頂寺にあるようですが、これは遷宮に伴うものと思われれます。

なお、下岩橋の弁天様の祭神は『宗教法人台帳』『神社庁台



弁天様の石祠

帳』の上では市杵島姫命(女神)であるとされているのですが、これは一般的な例です。ところが、土地では古くから男神であると伝えられて、北向きにまつられた怖い神といわれています。また、山の上にはまつられている点も特徴的です。何故でしょうか。これらの明確な理由は實際のところ不明なのですが、『大日経疏』によると「妙音天或は弁才天という。次に北にその妃を並べ置け」とあって、曼荼羅に妃とともに描くことを説いており、ここには男神として登場しています。また、高野山の獄の弁天のように山上にまつられた例も確かにあります。このことから考えると、伝承の背景は長く弁天様の別当をつとめていた真言宗大仏頂寺との関係が色濃いものと推測されます。



弁天山と直下の水田 弁天下

この他、弁天山周辺の状況は、その昔には印旛沼が増水するとこの弁天山の下まで水が流入し高瀬船が来ることもできたそうです。また、弁天山周辺には、オオフカオイ（大深生、現在までにオオブカオイと転化）・ミズブカ（水深、現在までにミズブカと転化）・フカオイノシタ（深生下、現在までにフカイジタと転化）などの小字地名があり、暗渠が設けられるまでは、深い水田が多く存在していました。

村に残された何気ない歴史的遺産、それらの発生した背景を知ることは記録が欠如している場合、極めて難しい状況にあります。その中において、現在という時代、一歩づつ類推を重ねて村の歴史の変遷を考えていく作業も過去と未来とを結び架け橋として大事ではないでしょうか。

「酒々井町と日蓮宗」を聴講して

相川 洋



「郷土史講座」を楽しみにしている一人です。宗教は奥が深く、難解な部分が多いのですが、加川先生の噛みくだいたお話を基に私なりに理解した日蓮の生涯を記してみました。

日蓮は貞応元年（一二二二）、安房小湊に誕生しました。時は鎌倉幕府、中国大陸では「元」が領土を拡大し、朝鮮半島さらには日本まで勢力を伸ばそうとしていました。

日蓮は清澄寺、比叡山などで学問を納め、「末法」と言われる「この世」を救うのは「法華経」しかないと求法の情熱に燃えて伝導を開始したりです。しかし既成の宗教の寺僧達は全く耳を貸しませんでした。房総に来て、ここで、下総八幡庄若宮に居を構え、いた富木常忍が最初の信者になりました。更に鎌倉に出ましたが、世は地震、飢饉、疫病がはびこり、不安と苦しみで満ちていました。

伊豆への流罪、瀧ノ口の法難、佐渡への流罪等の弾圧を受けながら生命の危機と飢えに耐えて身延山に草庵を開きました。健康が悪化した日蓮は、療養のため常陸国へ赴きましたが、途中の檀越、池上

宗仲の館で「法華経の行者」としての一生を閉じました。最終に臨んで日昭、日朗、日興、日向、日頂、日持の六人を本弟子と定め、日蓮の没後この弟子達によってそれぞれ門流が形成されました。

後、この池上の地には池上本門寺、下総の富木氏の館跡には中山法華経寺が開創されました。

酒々井町の日蓮宗寺には、千葉常胤の創建で真言宗から改宗した「経胤寺」。中山法華経寺の三世日裕の開山である「妙胤寺」。千葉一族の木村加賀守創建の「妙衆寺」。平賀本土寺九世の白意の開山の「長勝寺」などがあ

ります。日蓮の誕生の地に近く、この酒々井に本城を構えた千葉氏が日蓮宗に帰依し、中山法華経寺の大檀越であったことが、酒々井町の日蓮宗寺の開山に大きな影響を与えたと思われます。

数々の曼荼羅を前にして、日蓮の足跡や影響を聴講していると、当時が偲ばれるのみならず、日蓮の「法華経」によって万民を救おうとする気迫が伝わってきました。



史談会へのお誘い

会員の皆様が居住している地域の氏神様へ酒々井町全般二十五社へをその地を訪ねて勉強しています。神はどうして生まれ、たか。八百万神の系図はどうなっているのか。又自分の住んでいるところの神社の神様はどんなにどういう神様なのかと、学ぶにつれ興味が増え、つぎつぎと追求したくなります。神社仏閣の勉強は地味ですが、新しい発見もありそれは酒々井町の歴史にも大きなかわりをもつものと思われれます。

毎月第二土曜日の午後一時三十分公民館集合です。ご参加をお待ちしています。

郷土研日誌		7月~9月
月日	内容	参加者数
7/4	史跡文化財愛護活動	24名
7/8	名勝探訪「王子方面」	27名
7/10	史談会「酒々井町の石仏と文化財」	6名
8/8	郷土史講座「酒々井町と日蓮宗」	31名
8/25	研修部会	12名
8/30	部長会	13名
9/7	運営委員会	24名
9/11	史談会「酒々井町の石仏と文化財」墨西	10名
9/16	名勝探訪「上野方面」	29名
9/24	会報校正	6名
9/28	会報発送	25名
	延	207名

郷土研の草刈りに

参加して

斎藤アサ子

七月四日(日)、「今日は郷土研の草刈りだよ。早く行こう。」夫の声が弾んでゐる。未だ七時前なのに酒々井町の地固を閉じたり開いたり、子供の様にソワソワしている。昨夜も会長や上田さんに、場所と道順を尋ねていたようだった。何しろ九州から越して間が無いので地理不案内なのである。

私達はそそくさと朝食を済ませ、植木鉢と錆ついた鎌を手に車に乗りこんだ。「今日は暑くなりそうね。」と言ったら、夫は何か察しそうに空を見上げながら「今日は一つ快い汗をかくな」と一人言のように言った。すがすがしい風が頬を撫でる。とつても幸せな一ときを覚えた。辺りの景色を見る間もなく不動明王勝蔵院の前に着いた。車を社協の空地に駐め、誰かと一緒に引いたりつもりでその辺りの草が、それらしい人が一人も来な

かった。仕方なく不安な気持ちで目的の上岩橋貝層に向かった。一本道を急ぐと案内板があったのでホットした。

誰も来ていなかったが夫はカブした向こうの端から刈りはじめた。間もなく三三五五会員の方々が集って来て怒り賑やかになった。其の時わつと高い声、江沢さんが蝶の子を素手で捕らえたのだ。私は一瞬すくんだ。

辺りが見るみるうちにきれいになって行く。その頃私達女性六人は二台の車に分乗して古松碑へと向かった。

強い陽ざしの下、みんな黙々と草を取った。取り終わって引返してみると殆ど刈られていた。全員で後片付けをして作業は終了した。みんなの顔が光っている。町の文化財を大切に思う者と

して快い充実感を味わうと共にこれからも参加したいと思った。みんな飲んでビールは最高だった。



みんがで一つみんがのようにつきます。泉をくんでつぎはよもやまばなしがどうぞあなにもお仲間

見学案内

県外見学会 1/4(金)

◎宇都宮・鹿沼方面

大陥没の記憶も新しい大谷から色づき始めた紅葉の古峰方面へと栃木路を訪ねます。

大谷寺(大谷観音・天台宗)

坂東十九番札所で、弘仁年間空海の開創、高さ五十メートルの大谷石の岩壁に本尊千手観音、釈迦尊、薬師尊、阿弥陀三尊の十体の磨崖仏が彫られています。大谷資料館

古峯神社

日本武尊の神霊を祀り、鎌倉期には金剛童子像を併祀しています。金剛峯権現ともいわれ、火除けの神、五穀豊穡の神として関東奥羽信越遠く信仰されました。当町でも多くの講がたてられ、おなじみの神社です。天狗の神社として知られ、横の長さ一七六センチ、重さ一四キログラムの鳥天狗面が飾られています。昼食は近くの天狗屋にてヘル

シーな山菜料理を楽しんでいただきます。

満願寺(出流観音、真言宗智山派)

山流千手院坂東十七番札所で徳川時代には朱印五十石でした。日光山明黒山・月山・湯殿山等の行者は必ず此処で修行しなければ行者の資格が得られないと言つた格式ある大寺です。右手の小川沿いに少し登ると小さな鐘乳洞があり、其の中の鐘乳石が観音様の後姿に似ています。

名勝探訪 1/4(火) 1/4(水)

◎両国方面

両国駅の隣に今年三月末にオープンした「江戸東京博物館」がそびえています。粹でないせがな江戸の昔から東京都東京までがいつはいつかにタイムカプセルです。博物館を出て総武線を越えれば、相模の両国にふさわしく、歴代力士の手形入り石像があります。皆様のひいき、歴代横綱の手形さがしなどもしてみましよう。

回向院は明暦の大火焼死者の無縁仏を埋葬した寺ですが、お守り代りに削られたねずみ小僧の墓もあります。本所松坂町公園は赤穂浪士が討ち入った吉良上野介の上屋敷跡です。なまこ壁に囲まれている小さい公園ですが義士関係の記録も銅板で展示されています。十二月十四日の義士討入りの日にも近く、当時を偲んでみて下さい。

郷土研行事業案内

平成5年10月~12月

	10 月	11 月	12 月
史談会	10日(土) 午後1時30分 「酒々井町の石仏と文化財」 飯積地区子庭 中央公民館 会議室	13日(土) 午後1時30分 「酒々井町の石仏と文化財」 尾上地区子庭 中央公民館 会議室	11日(土) 午後1時30分 「酒々井町の石仏と文化財」 伊藤・伊藤新田地区子庭 中央公民館 会議室

名勝探訪 両国方面 12月7日(火) 京成酒々井駅集合 8:25
 (雨天中止) 代替日 12月9日(木)

コース 京成酒々井駅 → 浅草橋(のりかえ)JR → 両国 → 江戸東京博物館 → 歴代力士の手形入石像 → 花火資料館 → 回向院 → 本所松阪町公園(吉良郎跡) → JR両国 → 浅草橋 → 京成酒々井駅

問い合わせ 7:00以降 会田秀雄宅へ TEL

県内見学会

10月4日(月) A班 } 各班定員 32名
 5日(火) B班

出発時間 8:30 (雨天決行)
 集合場所 中央公民館

市原・佐貫・大貫方面

コース 中央公民館(8:30) → 西願寺(市原市) → 医光寺(市原市) → 東京湾観音(佐貫町) → 弁天山古墳(大貫町) → 中央公民館(17:00)

申込受付日時 10月2日(土) 9:00
 場所 公民館ロビー
 参加費用 1,000円(自由昼食)
 キャンセル 申込日の2日後につきてません

県外見学会

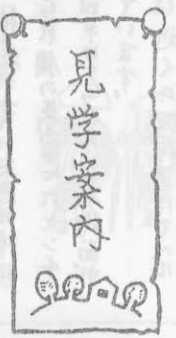
11月4日(木) 定員 45名 集合時間 5:45 出発時間 6:00 中央公民館前

栃木県宇都宮市・鹿沼市方面

コース 中央公民館(6:00) → 東北自動車道 → 大谷観音(宇都宮市) → 大谷資料館 → 古峯神社(鹿沼市) → 昼食 → 満願寺(栃木市) → 中央公民館(18:30頃予定)

申込受付日時 10月2日(土) 9:00
 場所 公民館ロビー
 参加費用 6,700円
 キャンセル受付 10月30日迄、会田秀雄宅へ TEL

(雨天決行)



県内見学会 10/4(月) 10/5(火)

市原・佐貫・大貫方面

◎ 市原・佐貫・大貫方面
 総やか秋の東京湾をながめながら、ゆるりと千葉の歴史を訪ねます。
 西願寺(天台宗)
 国道二九七号線沿いの清泰山三堂院という寺で、明治元年(一八九二)平蔵の領主平将経が城の鬼門守護のため七堂伽藍を建立して阿弥陀如来を安置したのが始まりといわれます。寛政年間(一七九九~一八〇〇)火災にあい、諸堂宇を焼失しましたが焼け残ったのが今の阿弥陀堂で、国の重要文化財に指定されています。

医光寺(真言宗豊山派)

市原市西国吉にあります。中尾山医光寺とい、通日千葉日報紙上に浅井長政ゆかりの寺として同寺から浅井家の位牌が発見されたことが掲載されて一躍有名になりました。

東京湾観音

佐貫町の、浦賀水道に面した海拔一三〇メートル余りの大坪山の頂上にあります。コンクリート製の大観音像で、東京の技術者、宇佐見氏が戦没者慰霊のため私財を投じて、昭和三十三年から五年がかりで、約一億

円を費して建立しました。高さ五十六メートル、像内のラセン階段をのぼると東京湾が一望できます。また冠には一萬燭光のライトがつき灯台の役目を果たしています。

弁天山古墳

大貫町の中央公民館となりにあります。前方後円墳で見学しやすく整備されています。石室には石棺が発掘時そのままに保存されています。



日本には四季がある。

あたり前に思っていたのに、今年の夏は何処かかくれんぼ。夏の代りに直撃の台風ラッシュ。おまけに地震に津波も加わって日本列島南から北まで災害に明け暮れる日々でした。天明・天保の大飢饉にも匹敵するこの異常気象下でも飢饉のない時代に生きていく幸せに感謝感謝。
 この秋は総やかな秋であることを祈って郷土研会報七〇号をお届けします。